

第43回 **BACH** スクリーンコンサート

2025. 4月

今月のテーマ **注目の次世代演奏家 2 人****バイオリン 吉村妃鞠**（よしむらひまり：2011 年生）

天才少女の呼び声が高いHIMARIさんは、出場した42のコンクール全てで第1位を獲得している。ヴェンゲーロフや榎本、木島さんを育てたザハール・ブロンをして「並外れた才能と信じられないほど高い技術はもちろん、彼女は様々な音色を表情豊かに演奏し、聴衆全てに感動を与えた。」と言わしめました。

3月、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の定期公演にアジア人最年少ソリストとしてデビュー。ヘンリク・ヴィエニヤフスキのヴァイオリン協奏曲第1番を演奏し注目を集めています。

**ピアノ 亀井聖矢**（かめいまさや）, : 2001 年生）

高校2年生終了後、桐朋学園大学初となる「飛び入学特待生」として同校に入学。2019年、大学1年生のときに、若手ピアニストの登竜門として知られる「ピティナ・ピアノコンペティション」特級グランプリと、「日本音楽コンクール」ピアノ部門第1位を獲得。2022年には、パリで開催されたロン=ティボー国際音楽コンクールで第1位に輝き、「聴衆賞」と「評論家賞」も受賞。今年のショパンコンクール出場が決まっています。



今後の躍進が期待される若手二人です。

演奏曲

吉村妃鞠 **メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 Op.64***亀井聖矢 **ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第3番 二短調 Op.30****

1、メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 Op.64 (28分)

第1楽章

オーケストラによる、たった2小節の序奏に続き、有名な第1主題がソロヴァイオリンに出てきます。第1主題は、非常に親しまれているものです。哀愁を帯びたちょっと感傷的なメロディです。

第2楽章

オーケストラの繊細な伴奏の上に、ソロ・ヴァイオリンによる抒情的な歌が出てきます。まさに「青春の歌」という感じのシンプルで瑞々しい歌の美しさがあります。

第3楽章

軽快さに溢れた、楽しい楽章です。掛け込んで来る様に出てくる第1主題、華やかな花が開くような第2主題ともに躍動的です。この2つの主題が競い合うように、輝きを持って流れ進んでいきます。

1、ラフマニノフ「ピアノ協奏曲第3番」ニ短調 Op.30 (41分)

ラフマニノフの作品の中でもピアニストには卓越した技術と表現力が要求される作品。

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・タント、

オーケストラによる短い序奏の後にピアノがオクターヴで奏する第1主題が全体を貫く共通主題となっており、全曲を統一する役割も持つ。通常の協奏曲における慣習とは異なり、展開部から再現部への移行部に第1主題の再現を兼ねたカデンツァが置かれている。

第2楽章〈間奏曲〉 アダージョ、

オーボエで提示される憂鬱だが美しい旋律を中心に、その他様々な重要な素材を扱って進む。中間部には第1楽章の第1主題が変形して現れるが、一度聴いただけでそれを判別することは難しい。ワルツ風のエピソードを経て冒頭の主題が再帰し、悲痛に高揚した後、激しい独奏とオーケストラによる色づけによって盛り上がり、アタッカによって休みなく第3楽章へ続く。

第3楽章〈終曲〉 アラ・プレーヴェ、

力強く決然とした楽章。自由なソナタ形式と言えるが、ラフマニノフ独自の形式である。